

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026年3月16日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	法学部法律学科
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2026年3月11日
明治大学卒業予定年月	2027年3月
留学先大学について	
留学先国	ドイツ
留学先大学	バイロイト大学(日本語名) University of Bayreuth(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	ドイツ語/英語
留学期間	2025年10月～2026年3月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 法学部 現地言語での名称: law <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input checked="" type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4月上旬～7月下旬 2 学期: 9月中旬～2月上旬	1 学期: 10月上旬～3月下旬 2 学期: 3 学期: 4 学期:
学生数	12773人
創立年	1975年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (ユーロ) (1 現地通貨 = 184 円)	B 日本円	備考
授業料	0	円	
宿舍費	1,752	円	992 ユーロ/月
食費	725.88	円	
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	114.52	円	家の通信料+携帯料金(15 ユーロ/月)
現地交通費	149.16	円	Deutschland ticket(24.89/月)(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
旅費(留学中)	1362.30	円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費	644.44	66,370 円	形態: 公的保険(TK)+明治指定保険
渡航旅費		円	
ビザ申請費	106	円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	4,854.3 (=890,829 円)	66,370 円	
総計(A+B) ※円		957,199 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路
往路 出発地：羽田空港 目的地：ニュルンベルク空港 経由地：フランクフルト国際空港 復路 出発地：フランクフルト国際空港 目的地：羽田空港 経由地：なし
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社：ANA, Lufthansa 料金：400,000 ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社： 料金： 復路 航空会社： 料金： ∴合計：
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名：) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名： ANA) <input type="checkbox"/> その他()
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前： STUDENTENDORF BIRKEN) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)
3) 共有部分
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法：
大学寮のサイト https://www.gamechanger-campus.de/en/accommodation
5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
寮は大学から徒歩 10 分、中心街までも徒歩 20 分と、とても便利な立地でした。近くにはスーパーマーケットやドラッグストアもあり、日常生活に困ることはありませんでした。私が滞在していた BIRKEN には多くの学生が住んでおり、私の部屋はキッチンで 4 人で共有する形式でした。寮は閑静な住宅地に位置しているため落ち着いた環境で過ごすことができ、周囲にも学生が多く住んでいることから、友人の部屋を気軽に訪れることもできました。また、住居から徒歩 5 分ほどの場所には大きな公園があり、散歩して気分転換できるお気に入りの場所でした。建物自体は新しいわけではありませんが、部屋は清潔感があり、快適に生活することができました。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

私自身は危険な目に遭うことはありませんでした。パイロイトの街は全体的に治安が良いと感じました。かばんを肌身離さず持ち歩くことや、貴重品の管理に注意するなど、基本的な防犯意識を持って行動していれば、特に不安を感じることはありませんでした。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯電話については、現地のVodafoneでSIMカードを購入し、番号を取得したうえで月額料金を支払いながら利用していました。Wi-Fiに関しては、寮や大学施設のものを利用していたため、個人で契約することはありませんでした。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

渡航前にExpatrioで開設した閉鎖口座から同会社のオンラインバンクアプリに毎月1,000ユーロ程送られてくるので、その中で住宅費や、保険料、交通費を払っていた。日常の支払いにはクレジットカードをつかっていた。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

アジアスーパーもあるので日本の食材も買うことが出来ますが、基本的に物価が高いので、気になる方は調味料など日本から持っていきこともお勧めします。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)	
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
German Elementary Course 1 (A1.1)		ドイツ語
科目設置学部・研究科	language center	
履修期間	2025 年 10 月～2026 年 2 月	
単位数	4	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	エクササイズ(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 90 分が 2 回	
担当教授	Giovanna Dasso	
授業内容	ドイツ語基礎	
試験・課題等	学期末試験(Reading, Listening, Writing, Speaking)	
感想を自由記入	20 人程度の少人数クラスであったため発言の機会が多く、教授との距離も近く、学びやすい環境でした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
English for Academic Purposes I (EAP I) (B2+) (Weekly Writing Workshop EAP I)	
科目設置学部・研究科	language center
履修期間	2025年10月～2026年2月
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	エクササイズ(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Helen Vayntrub
授業内容	毎週 250～400 字程度のエッセイ課題が課されており、授業ではエッセイライティングのポイントに関する講義と、ピアレビューによるフィードバックを中心に進められていました。
試験・課題等	毎週のライティング課題、期末試験(授業で扱ったエッセイ 10 個のテーマうちからランダムで出題されました。)
感想を自由記入	毎週異なるテーマについてエッセイを書くことで、ライティングにおける表現力や構成力を身につけることができました。また、毎回のピアレビューを通して他の学生のエッセイに触れる機会があり、表現方法や語彙の使い方を学ぶうえでも参考になりました。クラスには留学生よりもドイツ人の学生が多い印象です。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
International Communication in English (B1+/B2)	
科目設置学部・研究科	language center
履修期間	2025年10月～2026年2月
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	エクササイズ(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Patrick Casler
授業内容	テキストのテーマについて、クラスメイトと会話やディスカッションを行う授業でした。
試験・課題等	学期末の筆記試験
感想を自由記入	教授は明るく、学生も積極的に授業に参加していたため、楽しみながら受講することができました。また、授業のレベルも比較的高すぎることはなく、無理なく取り組むことができたと感じました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to Public International Law	国際法入門
科目設置学部・研究科	African Legal Studies
履修期間	2025年10月～2025年11月
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Thokozani Kaime
授業内容	国際法の歴史的背景や法源(条約・慣習法)、国内法との関係といった基礎理論を学びました。また、武力行使の制限や紛争解決の仕組みを理解し、水資源問題などの具体的な国際紛争を法的視点から分析する力を身につけました。
試験・課題等	学期末にエッセイ提出
感想を自由記入	開講期間は2か月間と他の授業に比べて短いものの、毎回ディスカッションやディベートが行われ、非常に内容の濃い授業でした。内容は難易度が高く、予習をしながら授業についていくのに精一杯でしたが、教授に加えて複数のアシスタントも参加していたため、質問しやすい環境が整っており、最後までやり遂げることができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Corporate Communication, Media and Marketing	メディアマーケティング
科目設置学部・研究科	Marketing & Konsumentenverhalten
履修期間	2025年10月～2026年2月
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャー、セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Claas Christian Germelmann, Lisa Ross
授業内容	メディアマーケティングについて、講義とセミナー形式の授業を通して学びました。授業では主にマッキンゼーの問題解決サイクルを用い、企業が直面するマーケティング課題を論理的に分析し、解決策を検討する実践的なプロセスを学びました。
試験・課題等	学期末試験(ケーススタディ2問)
感想を自由記入	モデルや問題解決プロセスは複雑で難しく感じる部分もありましたが、講義とは別に週1回の実践的なセミナーが設けられていたため、理解を深めることができました。また、セミナーではグループを組み、毎週異なるケースについてプレゼンテーションを行ったため、メンバー同士での議論を通して理解を深めることにもつながりました。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

出版、広告業界を希望しています。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

留学中に会った学生と将来について話すことで、多様な進路を知ることができ、自分自身の将来に対する考え方も広がったと感じました。一方で、就職活動の早期化を踏まえると、渡航前から少しずつ準備を始め、留学中もオンラインで参加可能なイベントなどには積極的に参加することが重要だと考えます。

ただし、留学中の経験は非常に貴重であり、その期間にしかできないことも多くあります。就職活動と並行することは精神的・体力的に負担が大きい面もありますが、それを理由に留学を断念する必要はないと思います。私自身も授業や現地での活動に取り組みながら、可能な範囲で就職活動を進め、帰国後に本格的に取り組みはじめています。留学中は大変な面もありましたが、3年次の秋学期に留学したことに後悔はありません。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	9月 IELTS 受験、学内選考(書類提出、面接)
留学開始年	1月～3月	3月留学先大学の選考
	4月～7月	5月航空券購入 7月 VISA 申請
	8月～9月	8月 閉設口座開設、ドイツ語夏季集中講座 9月 寮の契約、パイロット 大学オンラインオリエンテーション
	10月～12月	留学開始
留学/帰国年	1月～3月	2月 期末試験 3月 帰国
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私がドイツを選んだ理由は、多くのヨーロッパの国と隣接しており、さまざまな国籍の人々と交流できると考えたこと、そして比較的治安が良い点に魅力を感じたためです。中でもバイロイトを選んだきっかけは、インターネット上の情報が少なくあまり知られていない小さな町に興味を持ったからです。

実際に訪れてみると、自然が豊かで落ち着いた雰囲気の良い町でした。バイロイトは音楽の街として知られており、街の各所にワーグナーの像が見られます。小規模な町であるため、夜になると人通りが少なくなり、静かな時間が流れますが、それはむしろ「自分の街」のような親しみやすさを感じるものでした。天気の良い日には公園で散歩をしたり、ベンチでゆっくり過ごしたりする人が多く、私自身も友人とテラス席で過ごしたり、公園のベンチで絵を描いたり、ゆったりとした時間を楽しむことができました。滞在は秋から冬にかけてでしたが、春には花が咲き、さらに美しい景色になると聞き、また訪れたいと感じています。

バイロイトは小さな町であるため、電車などの都市交通はなく、大規模な商業施設も多くはありませんが、その分、小さなパン屋やカフェ、レストランなどでの出会いや発見が日常の中に多くありました。また、ニュルンベルクへはバスで約1時間、バンベルクへも電車で約1時間とアクセスが良く、都市での買い物や観光も気軽に楽しむことができました。

大学では多様な国籍の学生と出会うことができました。ヨーロッパからの学生に加え、アフリカスタディーズに力を入れていることからアフリカ出身の学生も多く、異なる背景を持つ人々との交流は非常に刺激的でした。特に、全員異なる国籍のメンバーで構成されたセミナーでの活動が印象的で、毎週図書館に集まり議論を行った経験は貴重なものでした。学生は全体的にまじめであり、その姿勢から多くの刺激を受けました。授業は教授との距離が近く、質問しやすい環境が整っており、講義だけでなくディスカッションやワークショップ形式の授業が多く取り入れられていました。グループワークやプレゼンテーションの機会も多く、当初は苦労しましたが、回数を重ねることでスピーキングやリスニングの力が向上したと感じています。また、日本について意見を求められる場面も多く、自国について説明できる準備の重要性も実感しました。

交友関係については、留学生向け団体 ESN のイベントに参加することでコミュニティが広がりました。また、渡航前に登録できるバディ制度を利用し、現地学生のサポートを受けることができたのも大きな助けとなりました。スポーツクラブにも参加し、現地学生との交流の機会を得ることができました。フラットメイトとも日常的に関わりながら、適度な距離感で生活できた点も良かったです。さらに、大学外の言語交流イベントやワークショップなどに積極的に参加することで、新たな出会いや経験を得ることができました。

ドイツは多くの留学生が集まる国であり、さまざまな文化や価値観に触れることができます。また、多くの人が英語を話すことができるため、ドイツ語に自信がなくても挑戦しやすい環境だと感じました。バイロイトは小さな町ではありますが、人や環境との出会いに恵まれた場所であり、充実した留学生活を送ることができました。3年次での留学は、就職活動との両立に不安もあり、実際に留学中・帰国後ともに大変な面もありました。しかし、それ以上に得られる経験は大きく、少しでも挑戦したい気持ちがあれば、留学を選択する価値は十分にあると感じています。強い意志を持って行動すれば、限られた時間の中でもやりたいことはすべて実現できると実感しました。